

2019年3月期決算の概要

預金残高



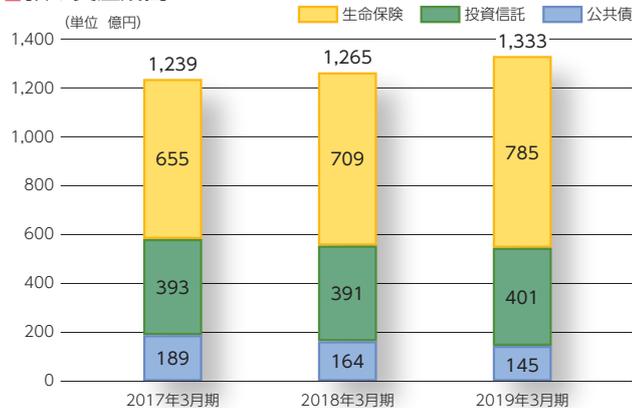
預金等残高（含む譲渡性預金）は、個人・法人預金ともに増加し、前年同期比229億円増加の1兆3,728億円となりました。新潟県内預金等残高は1兆2,130億円、県内預金比率88%です。

貸出金残高



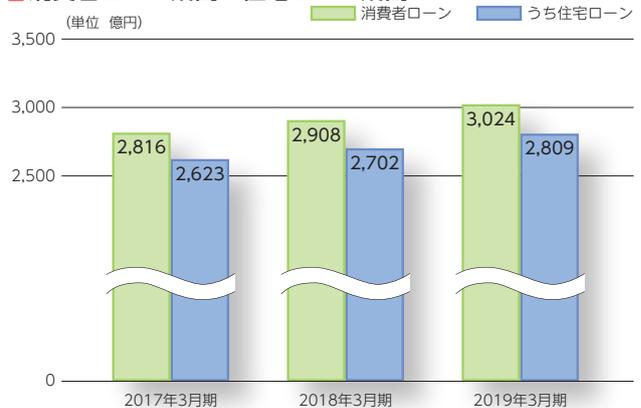
貸出金残高は、住宅ローンを中心に個人向け貸出が増加したほか、事業者向け貸出などが増加し、前年同期比242億円増加の1兆502億円となりました。新潟県内貸出金残高は7,038億円、県内貸出金比率は67%です。

預り資産残高



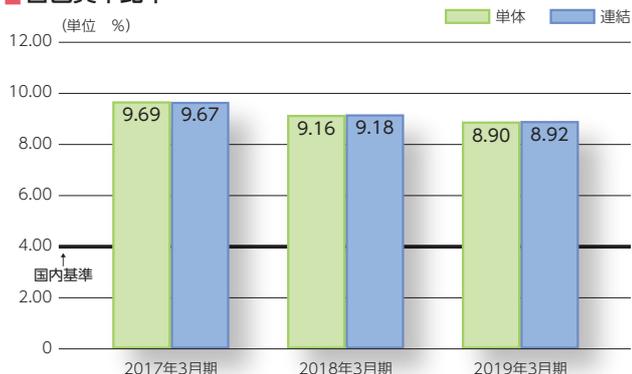
預り資産残高は、個人向け国債の償還などにより公共債は減少しましたが、生命保険、投資信託が増加したことにより、前年同期比68億円増加の1,333億円となりました。

消費者ローン残高・住宅ローン残高



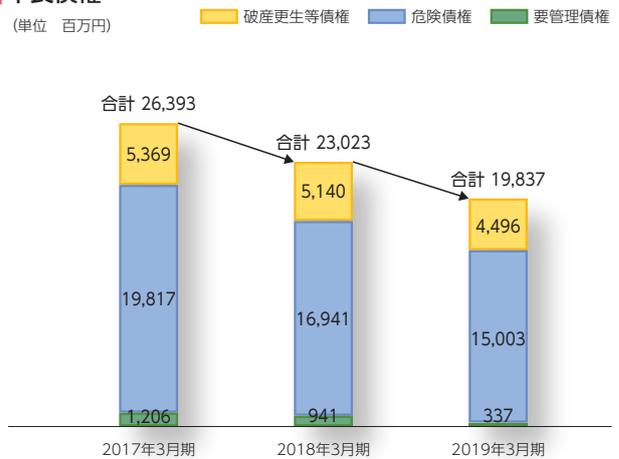
消費者ローン残高は、住宅ローンを中心に前年同期比116億円増加し、3,024億円となりました。

自己資本比率



自己資本比率は、単体が8.90%、連結が8.92%といずれも規制値の4%を大きく上回る水準であり、引き続き高い健全性を維持しております。

不良債権



金融再生法に基づく開示債権額は、前年同期比32億円減少の198億円で、総与信額に占める割合は1.87%となりました。

自己資本比率とは

貸出金や有価証券などの総資産（リスクアセット）に対する自己資本（資本金・内部留保など）の割合を示すもので、高いほど健全といえます。当行のように国内業務のみを営む銀行は4%以上を維持することが義務付けられています。

■ 損益

(単位 百万円)

	2019年3月期	2018年3月期	増減
業務粗利益	16,544	16,780	▲ 236
(資金利益)	(15,498)	(15,353)	(145)
(役員取引等利益)	(677)	(615)	(62)
(国債等債券関係損益)	(313)	(807)	(▲ 494)
経費	12,930	12,742	188
一般貸倒引当金繰入額	—	—	—
業務純益	3,613	4,038	▲ 425
(コア業務純益)	(3,300)	(3,231)	(69)
不良債権処理額	441	417	24
株式等関係損益	838	299	539
経常利益	3,842	4,740	▲ 898
当期純利益	2,532	3,519	▲ 987

$$\text{業務純益} = \text{業務粗利益} - \text{経費} - \text{一般貸倒引当金繰入額}$$

$$\text{コア業務純益} = \text{業務純益} + \text{一般貸倒引当金繰入額} - \text{国債等債券関係損益}$$

<前年同期との比較>

■ コア業務純益

物件費を中心に経費が増加しましたが、資金利益や役員取引等利益の増加などにより69百万円の増益となりました。

■ 経常利益

コア業務純益や有価証券関係損益の増加の一方で、実質と信関係費用の増加などにより、8億98百万円の減益となりました。

■ 当期純利益

経常利益の減少を受け、9億87百万円の減益となりました。

■ 業務純益・コア業務純益

(単位 百万円)



■ 経常利益・当期純利益

(単位 百万円)



■ 有価証券の評価損益

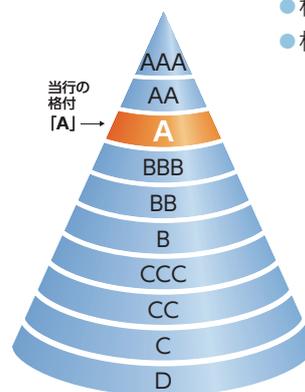
(単位 百万円)

	2019年3月期	2018年3月期	増減
満期保有目的	▲ 42	▲ 30	▲ 12
その他有価証券	12,761	17,139	▲ 4,378
株式	4,536	6,117	▲ 1,581
債券	4,633	4,937	▲ 304
その他	3,592	6,084	▲ 2,492
合計	12,719	17,109	▲ 4,390

有価証券全体の評価損益は127億19百万円となり、前年同期比43億90百万円減少しました。

■ 格付

株式会社日本格付研究所(JCR)より格付を取得しています。



- 格付：「A」（シングルAフラット）

- 格付の種類：長期発行体格付

※長期発行体格付とは、債務者（発行体）の債務全体を捉えて、その債務履行能力を評価したものをいいます。

※AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして「+」もしくは「-」の符号による区分があります。

- 安全性が高く評価されております。